

## 第2回黒部市都市計画マスタープラン及び黒部市立地適正化計画検討委員会

日時：令和6年1月22日（月）午前10時00分～

会場：黒部市役所2階 201・202会議室

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 協議事項

### 協議第3号 黒部市都市計画マスタープラン見直し（全体構想の検討）について

<事務局説明>

（委員長） ご意見、ご質問があればお願いします。前回の発言内容については、配布資料があるので、そちらも参照していただきながら、ご意見をいただければと思う。

特に拠点となるような道の駅、あるいは駅についての記述等があったが、いかがか。

（委員） 医療に関する内容は基本的でないものか。

都市構造の中で、基本的には三日市地区が従来どおり中心であろうという記述があったかと思うが、公共施設を造るにしても、建物、外構、駐車場などが必要となるが、三日市地区が手狭だということで、場合によっては、その周辺地域にもそういったものも考慮するような記述があるとよいのではないか。

次に、私は石田地区に居住しており、あいの風とやま鉄道の東西自由通路のような記述が加わっていた。同鉄道によって、湾岸地域と中心市街地が分断されており、駅周辺でそういう通路ができることは、回遊性が高まり好感が持てる。

一方で、例えば黒部駅前の東側や市民病院側などのにぎわいに関する記述があればよかったかと思う。

次に、道の駅 KOKO くるべができ、その記述が2～3見られたが、石田地区そのものについては、石田海水浴場、石田フィッシャリーナ、グリーンパークおおしま、総合公園、体育センター、温水プール、KOKO くるべ、FUROBAKKA、湾岸サイクリングコースなどの既存のレクリエーション施設が多くある。このサイクリングコースについては、大島のあたりに橋が10年後ぐらいにできるということで、1本の道としてつながるので一つの目玉、基点になると思う。石田地区、湾岸地区については、多くのレクリエーション施設があるということで、回遊性についても何か記述いただければいいと思う。

次に、石田未来会議ということで、昨年3回ほど石田を考える会が開かれ、その中でもいろいろ意見があった。高橋川に桜堤があるが、延長させれば多くの人が集まるのではないかということもあった。石田地区がにぎわってくれればいいかなとは思っている。

次に、このA4の土地利用イメージ図は、平成29年9月現在のイメージ図となるのか。

(委員長) 幾つかご意見、ご質問を頂いたが、事務局からいったんこれについて回答していただけたらと思う。

(事務局) まず、医療の関係については、別部門での計画でと考えており、都市計画マスタープランでは触れていない。

次に、三日市地区が手狭であるため、その周辺エリアのことについても触れればいいのか、周辺に広げればいいのかというご質問だったかと思うが、三日市地区については、空き家等も非常に多く存在していて、土地的には手狭だということで、まずその空き家対策に力を入れている。それともう1点、土地利用方針図で三日市地区が黄色に色づけされているかと思うが、黒部市では用途地域を三日市、生地、石田地区に設定している。この三日市地区の用途地域においては、居住誘導区域という区域を設定している。これはコンパクトシティということで、その居住誘導区域に人を呼び込もう、集めようという区域であり、人口減少を見据えてコンパクトなまちづくりをしていこうという施策を進めていることから、この三日市地区の周辺に居住や、まちづくりを進めるということではなく、あくまで三日市地区の居住誘導区域に都市機能や居住、そういったものを集約していきたいという思いである。

3つ目の黒部駅前のにぎわいの記述については、具体的な記述はないが、黒部駅の周辺の土地利用、まちづくりをどうしていこうかというような記述はしており、黒部駅の利便性を高めるために西側を何とかしようという話をしているが、西側と併せて当然東側もそういったことを考えていかななくてはいけないとは考えているところである。

次に、石田地区に関して、ご意見を頂いた回遊性については、追記する必要があるのではと考えているので、事務局内で検討させていただきたい。

最後に、土地利用イメージ図について、これは平成29年に現在の第2次総合振興計画の基本構想において示されたものである。これは、後期計画の中でも引き続きこういったイメージ図の下、まちづくりを進めていこうということであり、あくまで市の最上位計画で掲げた市の将来イメージである。

(委員) 最後のA4のものは、今後も生きていくというものになるわけか。

(事務局) 令和9年までが第2次総合振興計画の期間になっているので、そこまではこのイメージ図を目指して進めていこうといったものである。

(委員長) 他にご意見があれば。

(委員) 県では、都市計画区域マスタープランを定めており、おおよそ県のマスタープランとつながっていると思われる。

土地利用は、都市計画の基本であるが、書き方のニュアンスがどうなのかというところで、例えば9ページの3番に「道の駅 KOKO くらべ周辺では、地域振興に貢献する観光・にぎわ

い拠点として土地利用を図ります」とあり、10 ページでは、黒部駅の利便性向上ということで、「駅西側をはじめとした駅周辺においては、適切な土地利用の推進に努めます」とある。12 ページでは、「黒部駅及び生地駅周辺についても適切な土地利用に努めます」とある。推進する、図る、努めるといろいろな言葉があり、どう使い分けているか。KOKO くらべの周辺は、商業系の土地利用がかなり目立ってきている。このようなところは、明確に用途地域としていずれは指定する予定なのか、市の思いを確認させていただきたい。

(委員長) 12 ページで「道の駅 KOKO くらべ周辺については、用途地域の設定を検討」とあり、ここだけ具体的に「用途地域の設定」と書かれている。その他のところの土地利用を推進する、努めるとの関係も含めてご説明いただけたらと思う。

(事務局) 道の駅の KOKO くらべ周辺については、商業施設、宅地、そういったものの需要が見受けられる。現にそういったものが建ってきている。そういったことから、この周辺については、用途地域の設定も見据え、都市計画を進めていかなければいけないのかなと考えている。現時点では、用途地域を設定するとか、しないとかというところまでは考えていないが、そういったことも視野に入れた形で進めていきたい。

黒部駅、生地駅の周辺についてだが、ここについては用途地域の設定に関しては、道の駅よりも若干トーンが下がるかと思う。もう少し様子見というか、情勢を把握しながらの方がいいのかという思いである。

(委員) 27 ページの国土強靱化の靱なのだが、国の方では刃ではなくて、突き抜ける漢字(靱)を使っていたと思う。

立地適正化計画の 15 ページに関連して、27 番で、主に三日市地区に居住誘導区域を設定し、いろいろ集積させようという中で、地铁の各駅周辺においても居住誘導を図る。という表現があり、少し矛盾しているような気もする。電鉄黒部、東三日市はいいが、少し外れた駅までひとくくりにし、各駅周辺に居住誘導を図るとすると、どのように誘導するのか聞きたくなる。この表現について、どのように考えておられるか。

(委員長) 住宅地の需要については、15 ページの 27 番の記述、「居住誘導区域を中心に居住誘導を図る」というものから、「各駅周辺においても居住誘導を図る」という、この後の立地適正化計画との記述にも関係してくるが、先ほどご説明いただいた 12 番のところの「道の駅 KOKO くらべ周辺については、住宅団地の需要が見られることから」というのは、これは前向きな書き方で書かれているが、この辺は矛盾しないものなのか。市の考えていることをご説明していただけたらと思う。この後の立地適正化計画にも関わると思うので、説明していただきたいと思う。

(事務局) 今ほどの 27 番の「富山地方鉄道の各駅周辺においても、居住誘導を図る」という文言についてだが、表現の仕方は、事務局内で検討させていただきたいと思う。三日市

地区を中心とした居住誘導区域に居住なり、都市機能の誘導を進めていくというのが本市の取組施策である。一方で、黒部市には人口4万人に対し19の駅が存在し、非常に鉄道網に恵まれた市である。こういったものを最大限活かしていくということと、鉄道も近年その活性化や維持が大きな課題になっていることから、鉄道の沿線においても、居住誘導区域ほど強く誘導を進めるというわけではないが、各駅の周辺においても居住だとか、そういったものを促すような施策や取組など、鉄道を活かしたまちづくりも必要と考えている。ただ、この表現については、鹿熊委員のおっしゃるとおり、「居住誘導を図る」という表現は、少し強いかなとも感じるので、どう表現するか事務局で検討させていただきたい。

(委員) 富山市では、西町は明確な居住誘導を図るという形で言っているが、あそこもたくさん駅があって、駅から半径500m圏内、バス停から300m圏内と決めて、その中心から外れた駅の周りをどのように表現されているか、参考にさせていただければと思う。

(委員長) 12番については、立地適正化計画のところでご説明いただけたらと思う。

(委員) 先日の地震で、黒部もすごい揺れだった。自身は生地出身で、親は足が悪いため、生地の実家に親を迎えにいったのだが、仮に津波が発生していた場合、数分で到達するという話にもなっていた中で、高齢者や障害の方の避難誘導・平行移動というのは、なかなか難しいということが感じられた。

数分で津波が発生した場合、上層階に逃げるしかないのかなというところで、やはり石田、生地、村椿といった沿岸地域の避難の仕方、また、宇奈月などの土砂災害などの避難の仕方など、健常者であれば、何とか逃げる時間はあるのかもしれないが、高齢者や障害の方の避難について盛り込むことはできるか。

(委員) 私も1月1日、生地の漁港のすぐ近くの妻の実家にいて、地震が起きてすぐ両親を連れて避難というか、自分の実家の若栗へ向かったのだが、国道8号は渡れない状態であった。縦道も動かない。たまたま脇道を知っており行けたのだが、それでも新8号、旧8号がまずストップしている。黒部市の道路の状況が中途半端というか、幹線道路にスムーズな道がないというのが現状かなと思う。そういうものをこの計画の中にも盛り込んで、避難のための道路の計画というものも含めるべきではないか。また、避難は宮野に集中する。すると、新幹線駅の近辺から全部渋滞となる。1月頭に起きた地震に対し、すぐに計画ができるわけではないが、この状況を見据えた計画というか、どこかに盛り込むとか、何かそのような計画を立てていただければいいと思うが。

(委員長) 記述としてはNo.82に安全な避難路を確保する、今後の継続というようなことが書かれてはいるが、事務局で何かお考えのことがあれば。

(事務局) 避難の仕方なども盛り込むべきではないか。というご意見を頂いたかと思うが、都市計画マスタープランについては、都市の将来像、黒部市を今後どうしていくかといった部分になるかと思う。避難などについては、市の防災に関する計画として、黒部市地域防災計画がある。その計画との連携というか、どこに・どのように記載するかは、調整させていただきたい。

また、避難の際、宇奈月方面だとか、宮野方面、8号などが大渋滞になっていたという情報も把握している。こういった道路に関しては、現在、幹線道路網計画という道路の計画についても見直しを行っているところである。避難路等については、どこにどのように記載すべきかは、調整させていただきたい。

(委員長) その他の委員の皆さんからご意見があれば。

(委員) われわれは、国道8号の整備と管理を担当させていただいており、道の駅KOKOくろべなどの話も関連が深いところである。私自身、北陸の出身であり、ちょうど30年前に三日市に住んでいて、こちらの事情はある程度分かっているつもりではいるが、30年たって、発展してきたところもあるなと思う一方で、様変わりしたところもあると実感している。

今回の都市マスタープランだとか、立地適正化計画などが政策として社会行政の変化もとらまえて見直していくという部分がある一方で、多分市民のニーズから出てきたものに対しても、手当てするところも一つあるのかなと思っている。頂いている資料の中では、その裏付けの部分があまりなくて、このようにしていくといったところだけの資料になっているので、本当にそれが的を射ているのかどうか。といったところが気になっている。

その考え方としては、黒部は立派な企業もあって、基本的に市内完結といったところもあると思うが、市外、他市町から来られる方もいらっしゃるし、逆に富山市などに出掛けていかれる方もいらっしゃるという中で、流入・流出の昼間人口、夜間人口、今どのような生活をしているのかといったところをある程度頭に置いて、そういう外に出たり、外から入ってきたりしている中でも、それでも黒部に住み続けたいと思っている方がたくさんいらっしゃるかと思うので、そういった声がかみ取れているのかなといったところが少し気になるところである。

例えば、これまでのいろいろな意見を踏まえて、手を打ってきたことが合っているのかどうか。という検証も必要だと思うし、先ほど長田委員からお話があった東西の自由通路も、おそらくいろいろな意見の中から出てきて実現して、社会の生活の中にこれから実装しようとしているのだと思うので、そういうものも大事だと思う。また、先ほど橋本委員から話を頂いた地震のときの人の行動の中で国道8号が使えなかったというのは、非常に衝撃的な話ではあったのだが、そういう話もお住まいの方が実感して思っていることを課題としてくみ上げるといったところが非常に重要だと思っているので、やはり市民の方が快適になるような手を打つといった計画であってほしいからこそ、そういったところは本文に載せなくてもいいけれども、ちゃんと整理してほしいと思うし、そういうところが整理されていけば、例えば省庁や県への要望など、事業が進んでいくような中でも非常に裏付けの高い計画になっ

ていくと思うので、よろしくお願ひしたい。

(委員長) いろいろと書いてあるものの裏付けがあるような意見をくみ上げた形のものになっていってほしいということなので、ご要望を承ったということである。確か前回も若い人の意見を聞いたらどうかとか、取り上げることに關しては、ご意見が出ていて、何らかの対応をすることを事務局でも考えていらっしやったかと思うし、都市計画マスタープランは、来年度まで時間があるので、その中で対応していただけたらと思う。

(委員) 将来図を見せていただいて、前回も少し触れさせていただいたが、まちの成り立ちの歴史からこの鉄道網がある。何を切り口、何をシンボルにまちをまとめていくかというときに、この歴史的につながっている鉄道を、先ほど事務局からもあったが、駅の数が多いという中で、こういったものを利用していった方がシンボリックになるのかなと思ひ、意見を言わせていただいた。

富山市は、コンパクトシティということで「串と団子のまちづくり」ということで進められている。これが串と団子になるのか、串とちくわになるのか分からないが、こういった表現でまちをまとめていくということが重要なのかなと思っている。

先般「ブラタモリ」で市内の鉄道も紹介されていた。今回もコンパクトシティ・プラス・ネットワークということで、黒部市はモデル都市に選ばれているということと、市外からのUターン、Iターン、定住、移住など、都会の人にとっては、鉄道が非常に重要なアイテムにもなっているし、先ほどの地鉄沿線の居住誘導についても、鉄道を出すことによって納得できる表現になってくるのかなと思っている。できれば、この見直し案の柱のところに鉄道を出していただければ、鉄道がシンボルになっているのかと黒部市の場合は見受けられる。

私は牧野という町内会にいるが、ドラッグストアが4つできている。田んぼをやめたところでドラッグストアが建つというような状況で、これを恵まれているのかどうかという話なのだが、旧国道8号沿いにもドラッグストアがまた建つということで、高齢者等は、集落からバスでつなぐしかないということになる。ではなく、そもそも鉄道とか公共交通があるところに誘導に努める部分があれば、高齢者の方も公共交通沿線に大型店があった方が選択の自由が大きくなるので、白地地域なのでなかなか規制というわけにはいかないかと思ひが、そういったところを公共交通のネットワーク沿線に促すような、それが地鉄沿線なのか、南北循環線なのか、そういうところに持っていくような部分を、この誘導の場所に何かあればと思う。

(委員長) 立地適正化計画にも關連すると思うので、頂いたご意見までとし、マスタープランについては、引き続き議論する機会があるので、この後、立地適正化計画の方でまたご意見いただけたらと思う。

それでは、この第3号に關しては、全体構想の検討大きな方針については、原案のまま進めていくことの承認をいただけるということで、ご異議はないか。皆さま、ご異議ないので進めたい。原案どおり承認することに決定させていただけたらと思う。

## 協議第4号 黒部市立地適正化計画改訂版の素案について

### <事務局説明>

(委員長) 文言の修正、項目の追加、目標の下方修正、前回説明していただいた内容から変更があった点について、ご意見、ご質問はないか。

皆さんが考えていただいている間に、先ほど私が立地適正化計画で説明していただければと言った、適正な土地利用の規制・誘導のところで、「道の駅KOKOくろべ周辺における適切な土地利用の推進をする」と書いてあって、マスタープランの方の記述で、「商業施設や住宅団地の需要が見られることから、用途地域の設定を検討する」と書かれたが、ここの「適切な土地利用を推進する」というのは、誘導するという意味なのか。

(事務局) 居住誘導については、あくまでも三日市周辺の中心市街地に居住を誘導して、新幹線の駅周辺や、そういったところについては、居住誘導区域ということではないのだが、その周辺について適切な土地利用を検討していくということで、それぞれの計画で適切な土地利用を推進していくということで記載している。

(委員長) 他に委員の皆さんからご質問をお願いします。

(委員) 前回都合で欠席しており、資料だけ見せていただいたのだが、黒部空き店舗情報マップなども、今日の資料では多分4ページに当たるのかなと思うのだが、呼び水的な施策をどんと前へ出した方がいいのではないかという意見である。

成功しているものの理由として、利用された方からは、商工会議所の職員が書類も丁寧に指導して下さったし、市で家賃か、賃貸の補助も非常に役立ったということで、いいものをもっと前に押し出していくということができないか。例えば女性起業家には、もっと優遇するとか。黒部市は富山市に次いで、昼間人口の比率が大きいはずである。ただ、それは製造業に頼っているのも、それ以外の分野のところの女性の進出を増やしていけばいいのではないか。昼間人口は多いけれども、他市町村と同じように20代、30代、40代の女性の流出が大きい。何とかそれを止めるという側面も含めて、女性を優遇する。上市の0円空き家ではないが、そういうことはどうだろうか。

シェアキッチンを作って、そこを展開する。なぜかというと、一つは「あおーよ」は非常に人気があるが、飲食設備がない。あの周辺にシェアキッチンを作って、いろいろな人が交代で食料、昼でも夜でもいいし、曜日変更でもいいし、そういうことをすることによって、次に自分で自立して起業していくというような道をつくる前の段階、呼び水のそういう施策を作っていけば、いろいろな広がりが出てくるのではないか。まちなかのぎわいも生まれてくるのではないかと思う。そういう呼び水的な政策を前面に出すような形の計画にはならないのかなと。実際にされるのは各部署なので、ここで話をすることとは違うのかもしれない。

うのだが、いいものを前面に出していくということを計画の中に入れていただければというお願いというか、思いである。

(委員長) 多分これは、事前にお話ししていた立地適正化計画を作るだけで終わってしまうのではなくて、実現するまで継続して、少なくとも市内の体制を残していただけないかというところにつながるように思うが、今の体制の中では、いろいろと横のつながりがあってやっつけていただいていると思う。何か追加の説明があればお願いします。

(事務局) 現在行っている点がいくつかあって、居住誘導区域内で例えば住宅を取得、建てられる方、市外から転入される方について、居住誘導区域に入ってこられる方については70万円のかさ上げがある。また、市内からの転居であっても30万円のかさ上げを行っている。その他も賃貸住宅の補助など、空き家リフォームへの補助、空き家を活用したそういった支援についても、居住誘導区域内については、かさ上げの支援を行っている。

(委員長) 他にご意見はあるか。

(委員) 私は三日市地区であり、空き店舗や空き家の話が出ているが、先ほど国交省の餘久保委員も言っておられた、この計画の裏付けとなるような実態調査の話だが、やはり調査は大事だと思う。三日市としては市役所、あお一よ、コラーレ、YKKのパッシブタウン、市民病院、駅が二つもある。それから、しばらく行けばあいの風まである。こういうものを有効に活用するときには、やはり空き家をきちっと把握すること。それよりも将来空き家になるというのは、目に見えて分かっているということである。私も団塊の世代の一人だが、われわれの世代の人たちが家を守っている、夫婦で守っている、一人で守っているという人が多くて、その方がもし亡くなられる、あるいは施設に入られるということになると、そこは空き家になる。相続をされるご子息の方が県外、あるいは国外で働いておられるということになると、不在地主、あるいは不在家主になる。それを未然に防ぐためにも、早急にそのエリアを、特に重要施設の周りのエリアの状態を把握する調査が必要なのではないかと思う。将来計画と将来都市像と言っているが、われわれは10年後にいないかもしれない。そのときどうなるかということアンケートも含めて、「おたくはこういう状態だが、何年後はどうなるか」というような形で、そこは空き家となるとしたら、全体的な市の要となる施設のためのものに、どう土地利用をするかということ、あるいは居住計画、移設についても、その方々が将来住みたいということであれば、町会の人たちが併せて共同で移動できるような、そういう考え方などは、いろいろと施策としてはたくさんあると思う。だから、先ほどの餘久保委員が言っておられたように、やはり実態調査をして、しかも将来計画にはこういうものがいいだろうという一つのグランドデザインというか、そういうものの基礎を早く作るべきではないかと思っている。

県内にもいろいろな研究機関があるし、そういう方々の協力を得ながら、実態に基づいたマスタープランの実施プランを作っていただきたいと思っている。私たちも危機感を持って

いるが、こういう危機こそチャンスするときである。世代のしっかりした移り変わりに対して新しい世代がこのまちを支えていくようなまちづくりのためにも、そういう研究機関等の力を仰ぎながら、実態を把握する時期ではないかと思う。それをどこの段階で実施とか、あるいは計画策定で移すかというのは、それはそれぞれでいいと思うが、とにかく状況把握は大事なのではないかということで、意見をさせていただいた。

(委員) 私が先ほどお話しした裏付けが必要といったことについては、どうしてもこれから新しい調査をしなければいけないということを前提としているのではなく、例えば今までの都市計画基礎調査だとか、パブリックコメントでの情報があるかもしれないし、地域のコミュニケーション活動だとか、そういうことをやっている中で出てきた意見もあるかもしれないので、より新しい情報をしっかり裏付けとして整えればいいのではないかなといったところで、必ずしも新しいものをやりましょうという話ではないということも補足させていただく。

(委員長) 空き家調査だとか、今年度、都市計画基礎調査が行われているなど、新しいデータが出てきた時点で出そうというように前回もお話があったと思うが、ご意見を踏まえて、これからやっていただければと思う。他にご意見はあるか。

(委員) 肝心なことを三つだけ。今ほどの話にあった立地適正化計画の概要の4ページ目の左側の地図の浸水についてある。この凡例にある20m以上、10m以上というのは多分表の中にないと思うので、消してもいいのではないかと思った。あまり関係のない凡例は消してもいいのではないか。この立地適正化計画にも水深20mになるとか書いてあるので、こういう危機感をあおるようなものはよくないのではないか。実態に即した凡例にしておけばいいのかなと感じた。

次に、津波ハザードマップがどこかに出ていたと思うのだが、これを見ると、33ページの上の方に「黒部市津波ハザードマップ」と書いてあり、5mというのは多分ここに書いてある青色の避難対象区域ではないかなと思うのだが、この方たちが積極的に逃げればいいのであって、他の人が逃げたら邪魔になってしまうということを周知していくべきなのかなと。この青色の線の中に何人ほどおられるのかということも把握しておくべきなのかなと思った。この場合、三日市は関係ないのかもしれないが、5mという数字とか、避難対象区域というものをもっと周知していけば、混乱は少なくなるのではないかと思った。

3つ目、これは先ほどの都市マスの計画のところに出てきた道路の見直しなど、そういったところについて、今後道路計画が示されていたと思うのだが、それについても、もちろん入善土木とすれば、道路を造る方なので、あまり計画には関与できないかもしれないが、いろいろと一緒に話をさせていただければと思っている。

先ほどのマスタープランの見直しの中に津波ハザードマップ、土砂災害ハザードマップを周知するということが追記されたということなので、津波ハザードマップなどもこの機会に周知していくのもありかなと思って聞かせていただいた。

(委員長) 都市計画マスタープランと立地適正化計画両方にまたがって、津波関係のハザードの出した方、凡例の使い方についてご意見いただいた。事務局の方でここも対応いただけたらと思う。

(副委員長) 用途地域の指定の件だが、基本的な方針として、今般、公共交通等のネットワークが充実してきており、現状に即した形が多いと思うのだが、将来を見据えたという中で、ぜひ柔軟な形で対応を取れるようなそういう計画にしていきたい。例えば、都市計画道路新駅中新線の4車線化が進んできているし、都市計画道路前沢植木線がいろんな意味で、まちの中心とは言わないが、中心的な役割を果たす道路になってきているような気がする。そういった中で、用途地域としては高橋川までだったかと思うが、4車線化された道沿いとか、前沢植木線の延長された部分が商業地域として成り立つことが十分考えられるわけで、今すぐにどうこうというわけではないが、将来を見据えて、そういう地域も指定できるような形の計画にしていればと考えている。

土地利用のメインイメージだが、これを見ると新幹線の駅が中心に置かれて、新駅中新線がここにどんと通っているというイメージ図で描かれているので、これまで新幹線の駅周辺はあまり開発をしないというのが駅を整備したときの基本コンセプトにあるのだと思うが、あれからもう10年たつわけだし、状況も変わってきているから、ぜひそういうことを加味したような計画にしていればと考える。

(委員長) 黒部市は元々、三日市のところに絞られて、それに対しては守っていくというか、変更しないというところで資料は作られているかと思う。趣旨からするとあまり外側ということではない。ただ、本当に議論して、そういう形に見直しするべきだということであれば、根本的なところから遡って議論しなければならぬということになるが、本当に幹線道路のところまで思い切って誘導というか、区域を定めるということも全国的にほとんどない。そこまで議論に踏み込まないのであれば、このまま今の立地適正化計画の誘導区域の中で誘導するというのが趣旨である。皆さんどのお考えか。これまで策定したときよりもさらに人口が減っている中で、確かに新たに新しい道路や施設が造られても、構造が変わって余地はある。今の見直しの時点で、目標の数値も今回見直しされて、下方修正された。市の方から説明があればお願いしたい。

(事務局) 新駅中新線だとかそういったところについても、将来的な商業施設等の立地を想定しておかなければいけないのではないかと。というような話だったと思う。マスタープランの資料の12ページをご覧いただきたい。先ほどの説明では割愛させていただいたのだが、マスタープランでこういった都市計画道路の沿道については、商業施設等が出てくることも予想されるので、適切な土地利用に努める。というような表現を追記したところである。

(委員長) もう少し議論したいところではあるが、都市計画マスタープランについては、

あと1年議論する時間があるので、そちらでもう少しいろいろな議論できたらと思う。

与えられた議題としては、協議事項第4号の立地適正化計画改訂版の素案については、今回で議論は最終なので、もう少し意見を言いたかったという方がいらっしゃれば、後で紙やメールで事務局にご意見を頂くというようにさせていただけたらと思う。

今の時点で、大きな方針に関しては、採決させていただけたらと思う。原案の大きな流れについては、承認いただくということで、これ以外にも意見があれば、直接事務局に頂くという形で承認していただくということで、ご異議はないか。

それでは、協議事項第4号の立地適正化計画改訂版の素案について、提案のとおり承認していただくということで決定したいと思う。

以上で協議事項は終了した。活発なご意見、慎重なご審議いただき感謝申し上げます。

#### 4 その他

(事務局) 公募委員の興水委員から情報提供ということだが、公共交通に関する資料を皆さんの方にお配りしたい。

(委員) 先ほど事務局から、黒部は鉄道に恵まれているという話があったので、まさにその資料である。1ページ目は、いかに鉄道に恵まれているかという数字上のものである。富山市よりも恵まれているという数字が出てくる。1駅当たりの人口になっているので、数が少ないということは、それだけ恵まれているということである。

3枚目、4枚目のスライドである。3枚目は、ある鉄道線が廃止になった後の観光見込み客数を数字で落としている。鉄道が廃線になると観光に影響を与えているというようなデータである。ちなみにここは、永平寺線である。このように減っているという状況である。

下は国の情報だが、現在輸送密度1000人未満の路線については、いろいろな対策をしなければいけないというように検討されていて、県の方でも今年度末までに結論を出すということで、現在では鉄道を幹とした公共交通網の整備ということで、議論が進んでいるという状況である。

(委員長) 今、頂いた資料、あるいはその他にご発言等あるか。ないようであれば、これで私の役割は終わらせていただいて、事務局にお返ししたいと思う。

#### 5 閉会